

石川賞受賞記念セッション：改めて、日本の女性労働と家族を考える

応募者：中村友哉（明治学院大学）

趣旨

2026 年（第 21 回）石川賞が近藤絢子氏に贈られた。受賞理由にも記されているように、近藤氏は、就職時点の雇用環境の長期的影響に関する一連の研究をはじめとして労働市場における制度等の因果的影響に関する研究に取り組み、学術的・政策的に多大な貢献をしている。また、近年は自治体の行政業務データを活用した分析などにも研究の幅を広げ、具体的な政策課題に対して有用なエビデンスを提示している。

本企画セッションは、同氏の研究業績のうち、日本の女性労働を取り巻く問題である①**年収の壁**、②**チャイルド・ペナルティ**（子育てペナルティ）、および③**労働市場**を分析するにあたっての**行政業務データ**の有用性の 3 点に着目し、3 名の専門家がそれぞれ解説・議論を行ったうえで、近藤氏も交えて討論を行い、受賞対象となって研究およびそれに関するテーマについての理解を深めることを目的とする。これらの論点はいずれも、日本における女性の労働参加やキャリア形成に深く関わる重要な課題であり、政策的にも高い関心が寄せられている。

セッションの構成

本企画セッションは 2 部構成で実施する。前半は、本企画セッションのテーマ「日本の女性労働と家族」に関連する研究に取り組んでいる専門家 3 名による講演を行う。各講演テーマと講演者は以下の通りである。

- (1) 「年収の壁」の制度と実態／林正義氏（東京大学）
- (2) 子育てペナルティ研究の現状と日本の実態／奥山陽子氏（ウブサラ大学）
- (3) 日本における行政業務データ活用の可能性／佐野晋平氏（神戸大学）

後半は、臼井恵美子氏（一橋大学）の司会のもとで、前半の講演者 3 名と近藤氏によるパネル・ディスカッションを行う（フロアとの質疑応答も行う）。パネル・ディスカッションのテーマは以下の通りである。

- (1) 「改めて、日本の労働市場において、女性の労働参加・就労の障害となっているものは何か？」
- (2) 「その障害を取り除くために、いかにして政策・行政の現場に関わり、発信していくべきか？」